

大田区こども読書活動推進計画（第四次）（令和6～10年度）概要

1 計画の位置づけ・期間

（1）位置づけ

「大田区こども読書推進計画」は、東京都が策定した「第四次東京都子供読書活動推進計画」の基本方針及び区のこども読書活動の推進状況等を踏まえて策定した。本計画は、大田区教育委員会が策定した「おおた教育ビジョン（第4期大田区教育振興基本計画）」の具体化を図った、区のこども読書活動の推進に関する総合的な計画である。

第一次計画は平成15年3月に策定、第二次計画は平成23年4月に策定、第三次計画は平成28年7月に策定し、今回は第四次計画となる。

（2）根拠法令

「子どもの読書活動の推進に関する法律」（平成13年12月公布・施行）第9条第2項に基づき本計画を策定する。

（3）計画期間

令和6年度～令和10年度までおおむね5年間

2 第三次計画の検証・評価

*「目標値」…平成28年度に設定した目標値

*「実績」…(3)は令和5年度調査実績。その他は令和4年度調査実績

- 区立図書館は児童図書蔵書数（目標値460,000冊、実績453,794冊）では目標を達成することはできなかったものの、児童図書貸出冊数（目標195万冊、実績206万冊）では目標を達成することができた。
- 小・中学校での月間読書冊数は、小学校（目標値10冊、実績12.36冊）では目標を達成できたものの、中学校（目標値3冊、実績2.81冊）では、わずかに目標に及ばなかった。
- 1か月間に一冊も読書をしなかった児童・生徒の割合は、小学校（目標値1.5%、実績2.43%）では、わずかに目標に及ばなかったものの、中学校（目標値12.7%、実績7.6%）では目標を達成することができた。
- 小・中学校の「学校図書館図書標準」を100%以上達成した学校数は、小学校（目標値59校、実績49校）、中学校（目標値28校、実績25校）ともに目標を達成できなかった。これは、基準である「学校図書館図書標準」が学級数から算定され、児童・生徒数が増えると学級数も増え、基準値が上がることで図書標準を割込む学校があったことが要因である。
- 識字障害に気づいていないこどもが日々感じている困難さを軽減し、抵抗なく利用してもらえるよう令和3年度から学校図書館においても、リーディングトラッカーの導入を進めている。
- 読書学習司書は平成30年度に区内全小・中学校に各1名配置が完了した。学校支援団体や区立図書館の司書と連携しながら、学校図書館の円滑な運営に資する役割を担っているものの、調べ学習の支援や学習指導等支援が十分にされていない。

主な課題

(1)～(4)

不読率に対する改善に向けては一定の成果を得ているものの、小学生では不読率改善が進みにくい状況にある。読書を楽しむ習慣を形成するために乳幼児から発達段階に応じた読書活動が必要である。（計画本編8ページ）

(5)

読書バリアフリー法を踏まえ、多様なこどもたちを受容し、それに対応した取組をより加速させる必要がある。（計画本編10ページ）

(6)

読書学習司書の経験の違いや司書教諭等の意識の違いにより、司書教諭等と読書学習司書との連携の度合いに学校間の格差がある。（計画本編15～17ページ）

3 大田区こども読書活動推進計画（第四次）の基本方針

計画の基本的な考え方

○ 考え方1

こどもが読書を通じて、思考力、表現力、感受性、創造力を育て、豊かな人間性を形成していくために、発達段階に応じたきめ細やかな読書活動を、連続性に留意しながら行うものとします。

○ 考え方2

「学校、家庭、地域」が一体となってこどもを見守り、育てるという視点から、読書活動においても関係者との連携・協力を最大限に活用するものとします。

（計画本編18ページ）

計画の目標

【目標1】

発達段階に合わせた読書活動を支援します。

こどもは絵本の読み聞かせなどを通じて、本や物語の世界に興味を持ち、読書を楽しむようになります。こどもの発達段階を意識して言語能力や情操を育てる適切な読書活動を支援します。

【目標2】

こどもの読書活動の質を向上させます。

- ・読みたい本を選べる<選択する>
- ・本を読むことを楽しいことであると認識する<感じる>
- ・読書によって感じたことを自分の言葉で相手に伝える<伝え合う>

【目標3】

多様なこどもの読書活動推進のための環境を整備します。

学校、図書館等の施設や設備の整備・充実に努めるとともに、本の紹介方法・閲覧場所・時間帯・利用方法その他諸条件等を整備・拡充します。また、特別な配慮を必要とする子どもに対する読書活動を支援します。

（計画本編18ページ）

事業体系（主な事業）

I 乳幼児期：本との出会いと読書習慣の基礎づくり

- ・保育園等における良質な絵本の活用
- ・区立図書館における魅力ある児童コーナーづくり
- ・読書体験推進のための保育者への支援

II 学齢期：発達段階に合わせた読書力の向上

- ・読書学習活動における教員の資質の向上【○】
- ・学校における読書活動の推進<選択する><感じる>
- ・区立図書館による学校支援【○】<選択する>
- ・共通かじりカードの作成支援【◎】<選択する>
- ・読書学習司書における児童・生徒との読書の振り返り【◎】<伝え合う>

III 生涯を通じて：自ら本を選び学ぶことのできる読書環境の整備

- ・区立図書館における計画的な図書資料の収集
- ・特別な配慮を必要とするこどもへの読書活動の推進【○】
- ・専門性の確保と支援力の向上

◎新規 ○拡充

（計画本編20～31ページ）